

全国ネットワーク会議報告

テーマ「今後の全国ネットワーク会議の在り方について」

講師：河合将生さん（office musubime）

日時：3月8日（土）13：20～16：30

場所：新大阪丸ビル別館5階 5-3号室

参加団体：大阪、兵庫、神奈川、千葉、広島、北海道の権利擁護団体から12名

●当日のタイムスケジュール

13：00 開場

13：20 全国ネットワーク会議のあゆみ、いままでやってきたこと

13：30 グループトーク①1月2月の講義のふりかえり

14：00 全体シェア

14：20 グループトーク②全国ネットワーク会議に期待すること、運営に関する悩みなど

15：00 全体シェア

4月以降の全国ネットワーク会議のもちかた

16：10 まとめ

16：30 終了、片付け

グループトーク1のテーマ：1月2月の講義の振り返り

各グループから出た意見

- ・ボランティアの受け入れ体制が整っていないと、参加してくれても続かない。
団体の中で受け入れ体制を話し合う必要がある。
- ・団体を運営していくなかで特定の人に負担が集中しないように分担することが大事。また仕事をしながら運営や活動をしている人が多く、プレッシャーやストレスがある。
- ・運営や関係者の世代交代により、思いが引き継がれないことがある。

河合さんのコメント

- ・長く活動をしているからといって、必ずしもコミュニケーションが良好というわけではない。メンバー同士で「わかったつもり」になることもある。会議の場だけでなく、懇親の場を設けるなど工夫が必要。
- ・コンサルなど外部の人が団体に関与することにより、表面的には見えていない問題が浮かびあがることもある。

グループトーク2のテーマ：全国ネットワーク会議に期待すること、自団体の運営に関する

悩み

各グループから出た意見

- ・全国ネットワーク会議は継続してほしいが、運営や企画、調整は大変だと思う。定期開催にして持ち回り制や運営委員を募るのはどうか。
- ・zoom 利用の手軽さはあるが話し出すタイミングが難しく、疲労感がある。また他のグループがどんな話をしているのかも把握できない。
- ・今日のように実際に会って話すのは、とても安心感がある。会場費や各地からの交通費の課題はあるが、年1回は顔を合わせて話したい。
- ・時間の制約があり、仕事と団体運営とのバランスをとるのが難しい。「やりたい気持ち」はあっても、それだけでは続けられないのも事実。
- ・障害当事者は時間はあるが症状を抱えながらの参加でもあり、しんどいときがある。でも活動に参加することで症状が軽くなる可能性もあるので、障害当事者のさらなる参加を期待している。
- ・団体や活動を始めたころはわからないことが多く、全国ネットワーク会議の存在に助けられ、拠り所であった。団体や関わっている人によって、必要な時期・段階があると思う。必要な人が必要なときに参加できることが大事。
- ・ネットワークを活かし、今後、東になって発信したり行動したりできる可能性があると期待している。
- ・全国ネットワーク会議への参加は、どうやって呼び掛けるのか。参加対象の線引きの難しさがあり、「運営に関わっている人」では曖昧。

河合さんのコメント

- ・それぞれ仕事をしながらの団体運営や活動がある。全国ネットワーク会議の意義はあっても日々のことに追われ、後回しになりがち。そうならないために定期開催、習慣化させることで続けることができる。
- ・全国ネットワーク会議の運営もビジョン、人のかかわり、財源が大事。特にビジョンと人の関わりはセットで考える。
- ・「ある」という価値がある。困っていることを持ち込める場、相談できる場、拠り所を確保することが大事。
- ・各地で活動している団体が孤立しないよう、同じ悩みを抱えている人がいる、同氏がいるということがわかっているのが大事。
- ・財源はなくても、会を継続する方法はいろいろある。医療や福祉に関心のある企業など、自分たちだけでない資源を活用する。
- ・財源が必要であれば、費用を具体的に計算し、助成金申請のほか、クラウドファンディングや寄附付き商品の販売など、方法はいろいろある。

今後について

目的／何のために？

- 運営側の情報共有
- 参加者の拠り所
- 困ったことを持ち込める場の提供
- 新しい団体にとっての学びの機会

運営者の確保

- 運営委員を募る
- 各センターの事務局ができるといい

開催頻度・場所

- Zoom 開催は 2～3 ヶ月に 1 回
- 対面開催は年 1 回（冬や台風シーズンを避ける）
- 大阪や神奈川が候補地

財源の検討

- 財源なしでも開催可能な方法を考える
- 助成金申請やクラウドファンディングの活用も視野に入れる

情報共有・連絡方法

- Slack や LINE WORKS、Notion などのツール活用

報告書作成：大阪精神医療人権センター 藤原理枝